

Ⅲ－２

学校における環境教育・環境学習 の意義



学校教育における環境教育の目的は、次のように示されています。

環境や環境問題に関心・知識をもち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識の上にたって、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技能や思考力、判断力を身に付け、持続可能な社会の構築を目指してよりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境への責任ある行動をとることができる態度を育成すること

〔環境学習指導資料〔小学校編〕国立教育研究所教育課程研究センター（平成19年3月）〕から

学校における環境教育・環境学習は、人間としての生き方の教育の側面をあわせ持っています。特に、中学生・高校生は心身の著しい変化とともに、客観的・論理的に物事を考えられるようになる時期です。それはまた、それまでの生活経験から人間としての生き方を模索する大切な時期でもあります。

現在の日本における環境問題の中心は、かつての特定の地域における特徴的な環境破壊である「公害」から、私たちのライフスタイルに起因する「都市・生活型の環境問題」へと変化してきました。また、企業における各種規制の遵守や原料加工から製品の流通・廃棄までを見通した取り組みや、一般家庭におけるごみの分別をはじめとする環境への配慮など、以前とは比較にならないほど環境に関する意識が高まっています。

したがって、学校における環境教育には、その時々々の論調に流されることなく科学的、客観的に問題を把握すると共に、多様な意見・立場を理解しつつ、環境に配慮した選択肢を考え、行動しようとする態度を生徒たちに育成することが求められています。



宇宙からみた昼の地球



宇宙からみた夜の地球